

秋吉台パークボランティアの会 会長 末永豊明  
事務局 美祢市秋芳町秋吉台山 秋吉台管理事務所内  
TER. 0837-62-0640 FAX. 0837-62-0324

### 「焼山かくし」 四季の言葉

秋吉台の地名や四季の言葉は面白い。こういった地域の地名や四季の言葉をじっくり味わうことは、私たちの楽しみだ。

最もたくさんの人に感銘を与える言葉の一つは、「焼山かくし」だろう。昔、雪はよく降った。何日も雪が台上を白く覆って融けなかった。こんな時雪で秋吉台に上がるのに苦労したこともあった。降った雪が凍りつき、車が滑って事故になったこともあった。

二月の下旬になると、春の到来で、暖かくなり、湿っぽい「なごり雪」が降る。2月の中旬に山焼きが行われるので、最後の「なごり雪」は山焼後になる。山焼で焼けた大地の上でうっすらと雪が積もると、人々はこの雪に愛情をこめて「焼山かくし」と呼んだ。

私は写真が好きなので、これを写真に撮った。単なる写真では満足できず、現代アートに挑戦した。秋吉台は自然が創り出した大傑作だが、人類が現れると、大地に手を加え、改変してゆく。明治以前の人々は、大地に手を加えるのにも、神々の許しを得て、自然に順応したやり方で改変を試みた。大地に火を放ち、草原にしたのもその一つだ。私たちはこのような改変の仕方を「風景の作法」という言葉で表現した。

私は、「焼山かくし」が来ると、秋吉台にゆき、私の足で雪に円相を描き、作品にした。いわば、秋吉台の台地を風景の作法にかなう改変にしたいという願いをこめて絵を描き、写真にして残した。雪が融けるとすべて消え去る。こんな芸術活動も結構楽しいものだ。



## カルストの狩人 (2) 寄りかからず

秋吉台の自然は、自然が3億年もの歳月をかけて作り上げた、世界的な自然だ。たくさんの科学者が懸命に研究をして、秋吉台の歴史のなかで驚くべき物語を解明してきた。私たちは、これにうなずきながら理解し、この自然に敬虔な尊敬を送ってきた。

そんなとき、私たちは茨木のりこさ

んの「寄りかからず」という詩に出会った。この詩には長い人生を生きて、自分が学んできたことを信じ、自信を持って生きてゆく決意が語られた。

私たちは、秋吉台の自然の壊れたところを修復しながら、「保全とは何か」を考えてきた。結局私たちは、無条件で「秋吉台の自然を敬い、秋吉台を心底愛すること」によっていると考えるようになってきた。

寄りかからず

茨木のりこ

もはや  
できあいの思想に寄りかかりたくない  
もはや  
できあいの宗教には寄りかかりたくない  
もはや  
できあいの学問には寄りかかりたくない  
もはや  
いかなる権威にも寄りかかりたくない  
ながく生きて  
心底まなんだのはそれぐらい  
じぶんの耳目  
じぶんの二本足のみで立っていて  
なに不都合のことやある  
寄りかかるとすれば  
それは  
椅子のせもたれだけ

今後、私たちは自然から学んだことを身につけて、自信を持って実践してゆきたい。

私たちは、歩道の修復で、芝によるグリーン歩道づくりに専心したい。これは、私たちが10年間の秋吉台修復事業の中で考え続けて到達した結果だ。昨年、この事業が可能か否かを

実験的に実施し、可能との結論を得た。だから、今年、山口県の手作り事業の補助を受けて歩道の緑化に挑戦をしている。

全国の自然公園で、自然歩道の緑化は最初の試みになるだろう。私たちは自信を持って、この事業を達成したいと考えている。

## 中国新聞の社説（中国地方の視点から）に秋吉台のエコツアーが取り上げられた。

中国新聞の社説が秋吉台の観光問題を取り上げた。1月26日（月）の新聞だ。タイトルは「秋芳洞観光100周年」で、新しい観光創造をテーマにした。

秋芳洞は観光洞窟になって100年目の節目の年を迎える。100年前、梅原文次郎さんは観光産業を秋芳洞（滝穴）で起こすことにした。洞窟の通路や橋、渡し舟の設置、照明の工夫、また旅館を建て、案内人の養成、土産物づくり、事務所作り（宣伝で集客）…など手探り状態の中でどんどん事業を進めた。

やがて、天然記念物の指定で秋芳洞の名声は高まった。さらに昭和天皇（当時皇太子）の行啓を機に洞窟はどんどん広く知られるようになっていった。

戦争は、観光を国民から奪い去った。おかげで秋芳洞は閑古鳥が鳴いた。

戦後、昭和30年ごろになると、観光ブームがやてきた。年間200万人もの観光客が押し寄せた。黒谷支洞やトンネルを開けて、観光客の受け入れに全力を投入した。売店も、どんどん増えていった。

やがて、平成に入ると、観光客は引き潮のようにどんどん減少した。

このように100年の間に秋芳洞観光は絶えず変化を続けてきた。観光客の目的は変わり、観光客を迎える地元の人々の意識も変わっていった。

いまでは時代に合った秋芳洞観光にするため、新しい取り組みが求められている。この時代に適合した観光の創造が課題だ。秋吉台では、環境省の推進しているエコツーリズムを取り上げ、国や山口県と協力しあいながら、この時代にふさわしい観光を模索している。

中国新聞の論旨は、自然や歴史、文化を守り、心行くまで体験を積みながら、発見の喜びを満喫するエコツアーの取り組みに賛同するというものだった。私たちは、観光の原点はすぐれた秋吉台の自然や文化財などを求めてやってくる観光客を心から歓迎し、手を携えて自然を歩き、自然科学や食文化、芸術、文学など広い分野にわたる秋吉台の神髄を理解して、大きな感動を誘発することにあると思っている。私たちの試みはかなり成功して、参加者の感動は大きく、それが私たちの喜びを一層大きくし、本当に楽しい、やりがいのあるツアーを切り開いてきたと思っている。この何物にも代えがたい喜びは、秋吉台観光の未知なる分野を創造しており、秋芳洞観光に新しい風を吹き込んでいる。

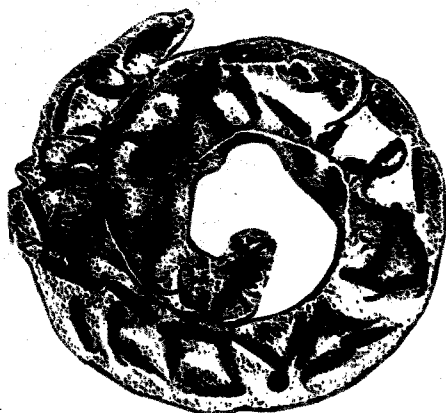
エコツアーは私たちが秋吉台観光に貢献できる一つの道に違いない。しかし、今のままでは役には立たない。どんどん進化させ、大きく育て上げなければならない。そのためには、市民が力を合わせて、厳しく育てる努力が必要だろう。

季節の話題 2月  
春の兆し

カスミサンショウウオの産卵

2月に入ると、いつの間にか春の気配が生まれ始める。カスミサンショウウオが冬眠から目覚め、産卵を始めている。秋吉台では、水の湧き出す小さな泉で、産卵が行われる。

卵はゼリー状の袋の輪 [卵のう] の中に黒い粒粒が入っている。やがて卵は孵化して幼生状になり、ゼリーの中で運動を始める。サンショウウオは氷河時代の生き残りだろう、真冬の水中で産卵が行われる。



ヤマアカガエルの産卵

2月に入ると突然暖かい日がおおずれる。こんな時、冬眠していたヤマアカガエルも土の中から這い出して、ため池など水辺にやってきて、賑やかに鳴く。すると、メスガエルがどこにもなく集まり、賑やかな雌の争奪戦が繰り広げられる。その鳴き声はニワトリやカモに似ており、にぎやかだ。ここにはヒキガエルもやってきて、カエル合戦が起こる。

このように暖かい日を「カエル日和」という地方もある。

今月の作業

2月から3月

2月7日(土) 歩道の修復

9時に旧管理事務所に集合。歩道の修復をします。

2月15日(日) 山焼支援

旧管理事務所に7時45分までに集合してください。例年のとおり、龍護峰方面[上瀬戸地区の担当]に山焼支援にゆきます。

臨時に作業を実施します。雨が多く、作業予定が狂ってしまいました。

2月21日(土) 歩道の修復

歩道の修復作業が遅れています。臨時に作業をします。9時に旧管理事務所前に集まってください。

2月28日(土) 歩道の修復

9時に旧管理事務所に集合してください。歩道の緑化修復をします。

3月8日(日) 歩道の修復

9時に旧管理事務所に集合。  
前号で共生ネットワークの冬の集とお知らせしましたが、実施日が変更したので、3月8日は歩道の修復をします。

3月15日(日) 自然共生手作り事業  
体験発表会 山口県セミナーパーク 102号室 10時30分~16時まで。

私たちの会も手作り事業の補助を受け、歩道の修復[芝による緑化]作業をしました。その過程を発表します。皆様も参加してください。

3月22日(日) 自然共生ネットワークの冬の集いをします。詳細は次号で・・・。